

# 9回生 原口文明さん (佐賀市出身)



「生活の中に豊かさ」を。縁の下の力持ちであり続ける喜びと使命感。

- 1998年 3月 弘学館高等学校卒業
- 1999年 4月 立命館大学法学部入学
- 2003年 3月 立命館大学法学部卒業
- 2003年 4月 西日本鉄道入社

(2018年6月現在)

## 友人の志高い将来像に刺激を受けた高校時代

高校に入学して全寮生活へ。先生とクラスや部活の仲間に支えられながら学校生活にはすぐ慣れました。沢山の友人の志高い将来像に刺激されながら前向きに頑張れた3年間。目標を持って何事にも懸命に頑張る大切さを教えられました。

立命館大学を卒業後、西日本鉄道(株)に入社。人々の生活に密着する縁の下の力持ちである使命感、九州を拠点に様々な事業を通じて「生活の中に豊かさ」を提供することができる可能性に魅力に感じました。

入社後は、バスの事業部門を中心に社歴を重ねてきました。人口減少と少子高齢化が進む中、社会インフラとしての公共交通の重要性は増し続けます。生活の中でいつも近くにある安心感、活気ある街づくりに欠かせない公共交通は、持続可能な社会に必要不可欠な要素です。

## 社会の一員として思うこと

社会は、誰かの仕事に支えられて成り立っている。その社会の一員として自分はどのように貢献できているのかと常に考えさせられます。

人口減少と少子高齢化が併進する日本。今後は様々な局面で人手不足の問題が生じ、最先端技術を活用した自動化などで「誰か」の分担率において人が行う業務の割合が減少してくることでしょう。

東京事務所に転勤後、本社のある福岡では経験できない先進事例などを紹介するのがグループ誌の定期掲載。人として感じた実体験レポートが、人間らしい社会貢献ができる事業のヒントになればと考えながら執筆します。

最先端技術と共存する時代が迫りくる中、人が担うべき仕事は「優しさ」や「温かみ」など、人間らしさに包まれたものであるべきです。



<グループ誌「にしてい」の東京見聞録を担当>

## 原口文明さんのとある一日

- 9:00 出勤
- 10:00 社内誌の現地取材
- 13:00 業務関連講演の聴講
- 16:00 打ち合わせ(社外)
- 18:00 帰宅

## 後輩へのメッセージ

優秀な成績ではなかった高校時代。将来に不安を抱きつつ、多くの仲間から刺激を受けながら自分の「芯」となるものが培われました。時として自分を客観視する時間が大切で、そのためにも自分にはない経験を持つ多くの人と交流することが視野を広げるために必要です。自分の可能性を決め付けることなく、常に前向きにチャレンジできる志は、「芯」があってこそ持てるもの。出逢いを大切に、時には強く時にはしなやかな対応ができる素晴らしい人を目指して欲しいと思います。